

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 麻生将太郎

本研究は DPC データベースを用いた重症救急患者の臨床疫学研究が行えるかを試みたもので、下記の結果を得ている。

1. 経皮的心肺補助装置を使用した患者の記述疫学を行い、各疾患の死亡率や離脱率を明らかにした。心原性ショックに対する使用が最も多かった。心原性ショックに限定し予後因子も検討し、大動脈バルーンパンピングが予後良好因子、心肺停止、年齢が予後不良因子であることが示された。

2. 心原性ショックに対する経皮的心肺補助装置を使用した患者の中で、大動脈バルーンパンピングの効果を検討した。大動脈バルーンパンピングを使用した群と使用しなかった群の2群に分けて傾向スコアマッチングを行い、大動脈バルーンパンピングの使用と死亡率の低下が関連をしていた。一方で、腎代替療法を使用した群の層別解析では、大動脈バルーンパンピングと死亡率に関連は認めなかった。

3. 外傷患者に対する開胸下大動脈遮断術と大動脈遮断バルーンの比較検討を行った。病名から重症度を補正し、傾向スコアによる調整で死亡率を比較し、両群の死亡率に有意差は認めなかった。

以上、本論文は DPC データベースを利用した重症救急患者の臨床疫学研究が可能であることを明らかにした。本研究は重症救急患者におけるリアルワールドデータベース研究の一助になると考えられる。

よって本論文は博士(医学)の学位請求論文として合格と認められる。